

## 第 23 次東京都観光事業審議会（第 2 回）

日時:令和 3 年 12 月 24 日（金）午後 1 時 30 分から

場所:都庁第一本庁舎 42 階特別会議室 A

午後 1 時 30 分開会

**【築田観光部長】**

それでは、お待たせいたしました。定刻となりましたので、これより「第 23 次東京都観光事業審議会」を開会させていただきます。

本日は年末の御多忙な中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、事務局を務めさせていただきます東京都産業労働局観光部長の築田でございます。議事に入りますまでの間、進行役を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。着座のままにて失礼いたします。

初めに配付資料の確認をさせていただきます。

お手元には、議事次第。

座席表。

資料 1 から資料 4。

参考資料をお配りさせていただいております。

御確認をお願いいたします。

続きまして、お手元にお配りしてございます資料の委員名簿に沿いまして、前回の審議会以降、新たに委員に御就任いただきました皆様を御紹介させていただきます。

都議会議員の皆様でございます。

東京都議会議員、東京都議会自由民主党、三宅正彦委員でございます。

東京都議会議員、都民ファーストの会東京都議団、保坂まさひろ委員でございます。

東京都議会議員、東京都議会立憲民主党、西崎つばさ委員でございます。

本日は 20 名の方に御出席いただいております。うち 4 名の方はオンラインでの御出席となっております。出席者につきましては座席表の配付をもって代えさせていただきます。

続きまして、都側の出席者につきましても、前回の審議会以降、人事異動等がございましたので、この場をお借りして御紹介させていただきたいと存じます。

副知事の潮田勉でございます。

産業労働局長の坂本雅彦でございます。

その他の出席者につきましては、お手元の座席表に記載のとおりでございます。

また、本日は東京都の関係各局の職員がオンラインで傍聴させていただいております。

それでは、この後の議事進行につきましては、大下会長にお願いさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**【大下会長】**

それでは、御指名でございますので、これより私のほうで進行を務めさせていただきます。

初めに、潮田副知事から一言御挨拶をお願いしたいと思います。

**【潮田副知事】**

ありがとうございます。東京都の副知事の潮田でございます。

大下会長をはじめ委員の皆様方におかれましては、年末の大変お忙しいところ、御出席を賜り

まして誠にありがとうございます。

また、平素より東京都の観光行政にお力添えをいただいておりますこと、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げさせていただきます。

観光を取り巻く環境は、新たな変異株の発生もございまして、依然として不透明な部分がございますが、この夏には東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されまして、アスリートが挑戦する姿は、世界中に勇気と希望を届けることができたのではないかと考えております。

東京大会の成功によりまして世界中からこの東京に注目が集まる中、これまで大会に向けて取り組んできました様々な成果、これを都市のレガシーとして発展をさせていきたいと考えております。

また、本年 10 月に発表されました富裕層向け旅行雑誌『コンデ・ナスト・トラベラー』が行った読者投票では、世界で最も魅力的な都市に、アメリカ版では 2 年ぶりに、イギリス版では初めて東京が選ばれました。東京の旅行地としての魅力が十分に認知されていることが改めて明らかになりまして、将来のインバウンド回復に向けまして、今後とも東京の魅力を戦略的に発信していきたいと考えております。

東京は、2022 年度から 2023 年度までの 2 年間の計画期間とします「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン～観光産業の復活と持続的な成長に向けて～」の策定を現在進めてございます。本日の会議では、その案をお示ししておりますので、地域や観光関連の団体・企業等を代表いたします委員の皆様から忌憚のない御意見をお聞かせいただきたいと存じます。

新たなプランは「観光産業の復活と『サステナブル・リカバリー』の実現」を基本理念に掲げておりまして、本プランに掲げる施策を強力に推進し、観光産業を再び成長軌道に乗せることで、世界最高の「PRIME 観光都市・東京」の実現につなげていきたいと考えてございます。

本日皆様からいただきました御意見を踏まえまして、来年の 2 月をめどに最終的なプランの取りまとめを行いたいと考えております。何とぞよろしくお願い申し上げます。

結びに当たりまして、今後とも、東京の観光振興のためお力添えを賜りますよう、心からお願いを申し上げます。簡単ではございますが私からの御挨拶をさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

副知事は所用のため、これもちまして退席させていただきますと思います。

#### 【潮田副知事】

すみません。よろしくどうぞお願いいたします。

(潮田副知事退室)

#### 【大下会長】

それでは、議事に入る前に、本審議会の公開について確認をさせていただきます。これまで同様に本審議会の公開とさせていただくということでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

**【大下会長】**

異議がないようでございますので、本審議会は公開といたします。

次に、議事録の署名人の指名をいたしたいと思います。

私も署名人になりますが、そのほかに平澤委員にお願いしたいと思いますが。いかがでしょうか。よろしいですか、平澤委員。

**【平澤委員】**

はい。よろしくお願ひいたします。

**【大下会長】**

それでは、平澤委員、よろしくお願ひをいたします。

それでは、これより議事に入りたいと思います。

本日の議事の内容について、事務局から、まず御説明をお願ひいたします。

**【築田観光部長】**

本日の議事は、今週 21 日に公表させていただきました「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン～観光産業の復活と持続的な成長に向けて～（案）」に対する意見具申でございます。委員の皆様から御意見を頂戴いたしまして、年度内に公表する最終版に反映させていただく予定です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

**【大下会長】**

もう既に、先ほどのように今週 21 日に公表されているという内容のものでございます。

それでは、事務局より改めて「PRIME 観光都市・東京」の実行プラン、新プラン、その案についての御説明をお願ひしたいと思います。

資料は事前にお配りして、委員の皆様にはお目通しいただいていると思いますので、ポイントを絞って説明願えればと思います。

それでは、よろしくお願ひいたします。

**【小林観光振興担当部長】**

かしこまりました。それでは「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン～観光産業の復活と持続的な成長に向けて～（案）」につきまして、概要版のほうで御説明をいたします。

資料 3 を御覧いただけますでしょうか。オンラインで御参加の方々には、スライドでも表示いたしますので、御覧いただければと存じます。

第 1 章は「東京の観光産業振興の意義」についてでございます。

新型コロナによる深刻な影響が続いている観光産業の活性化に向けましては、事業者の取組を強力に後押しし、持続可能な観光産業へと進化していくことが必要でございます。国際観光客数の大幅な減少や旅行スタイルの変化、デジタル化の進展など、観光を取り巻く様々な状況の変化に対応し、観光産業を再び成長軌道に乗せるため、新たなプランの策定によりまして、施策の方向性を明らかにすることが重要であると考えております。

第 2 章は「今後の観光産業振興の方向性」についてでございます。

基本理念は「観光産業の復活と『サステナブル・リカバリー』の実現」としております。

本プランの推進によりまして、観光産業がコロナ禍前に戻るのではなく、活力を取り戻し、一層成長することで、都民生活や地域社会に潤いや豊かさをもたらす持続可能な観光を目指してまいります。

「戦略と施策」につきましては、後ほど第3章で御説明いたします。

「計画期間」は、インバウンドの回復が見込まれるまでの間、2022年度から2023年度までの2か年といたしました。

「政策目標」につきましては、未来の東京戦略を踏まえまして、2030年に向けた9つの目標を設定してございます。

旅行者数や消費額など、従来の目標に加えまして、持続可能な観光を推進する観点から、都民の意向や文化、環境分野の目標も掲げてございます。

「観光産業の復活に向けたロードマップ」では、計画期間における観光需要の回復フェーズを3段階に整理し、フェーズごとの施策展開をお示ししてございます。

第3章には「観光産業振興に向けた今後の施策展開」といたしまして、3の戦略と7つの施策を掲げてございます。

初めに「戦略1 観光産業の活性化」につきましては、「施策1 観光関連事業者の経営力向上への支援」といたしまして、事業者からの相談等にワンストップで対応する支援基盤の構築や人材育成など。

「施策2 国内観光の活性化と国内外へのプロモーション」といたしまして、都内や近隣県をはじめ、日本各地と連携した国内観光活性化の取組や、海外からの関心をつなぎとめるための情報発信など。

「施策3 あらゆる旅行者が快適に滞在できる受入環境の整備」といたしまして、バリアフリー化への支援や、アクセシブル・ツーリズムの推進などにつきまして記載してございます。

「戦略2 社会変化等に対応した『新しい観光』の浸透」につきましては、「施策4 デジタル技術を活用した観光の推進」といたしまして、観光事業者のDX導入の促進やデジタルマーケティングの推進など。

「施策5 東京ならではの観光資源の磨き上げと新たな観光スタイルの浸透」といたしまして、地域の様々な主体が連携した観光資源の開発や旅行需要の分散化・平準化など、新しい日常に対応した観光を浸透させる取組。多摩・島嶼地域における観光コンテンツの開発及び魅力の発信などにつきまして、記載してございます。

「戦略3 持続可能な観光の推進」につきましては、「施策6 地域・住民に寄り添った観光地域経営の推進」といたしまして、都民の観光への理解を深める取組や担い手の確保、事業者や地域における危機管理対応、SDGsの達成につながる文化や自然環境に配慮した取組など。

「施策7 観光産業の持続的な成長に向けた基盤の強化」といたしまして、消費額拡大に向けた魅力ある観光コンテンツの開発や誘客の促進。観光関連団体等の連携など、組織の発展につながる取組。多摩・島嶼地域において、長期滞在等を推進する取組などにつきまして記載してございます。

MICEにつきましても、3つの戦略との整合を図ってございまして、国際競争力の強化に向けた

支援や情報発信、MICE 主催者等における DX の導入促進や人材育成、SDGs に配慮した取組の推進の 3 点を掲げてございます。

第 4 章では「観光産業振興実行プランの実現に向けて」といたしまして、主体となる国や都、公益財団法人東京観光財団等の役割を整理いたしますとともに、第 2 章に掲げた政策目標の達成に向けまして、分野ごとに管理指標を設け、施策の立案、改善に活用していくことで、持続可能な観光地域経営を推進することとしております。

第 5 章では「これまでの取組の成果と東京 2020 大会のレガシー」につきまして、記載してございます。

主要な観光地におきまして、観光情報にアクセスしやすい環境を整備し、旅行者の利便性を高めるとともに、ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 大会等を契機としたオールジャパンでの魅力発信に取り組んでまいりました。こうした取組を、都市のレガシーへと発展させ、世界中のあらゆる人々を魅了する観光都市東京へと進化させていくこととしております。

事務局からの説明は以上でございます。

#### 【大下会長】

簡潔に御説明いただきましてありがとうございました。

それでは、御説明いただいたプラン案について御意見があれば、この後お願いしたいと思います。

まず、会場に御出席いただいている委員の方は挙手をお願いし、オンラインの方は挙手機能にて私のほうにお知らせいただければと思います。

また、会場に御出席いただいている委員の方は、御発言の際にはマイクの右側のボタンを押していただきますと、赤く、私の今のようになりますので、それで発言をお願いするようにいたします。御発言が終わりましたら、再度右側のボタンをもう一回押していただくと、音声が入らなく、マイクが通らなくなります。オフにしていいただければと思います。

オンラインで御参加いただいている委員の方は、発言されるときのみマイクをオンにしてください、それ以外はマイクをオフにしてくださいようお願いしたいと思います。

皆さん全員からできれば御意見をいただきたいと思っておりますので、お一人で長く御意見をいただきますと終わらなくなってしまいますので、お一人 3 分程度を目安にお願いできればと思います。御協力のほど、お願いをいたします。

それでは、どちらからでも結構ですが御意見をいただきたいと思っておりますので、挙手をお願いしたいと思います。

お願いいたします。

#### 【藤崎委員】

ANA 総合研究所の藤崎です。

御説明、ありがとうございました。非常に簡潔によくまとまった御説明だったと思います。

2 点ほどございまして、第 3 章のところで御指摘いただきました観光の活性化というところでございますと、まず、事業者だとかの基盤の構築、そこに対する人の支援、人材の育成という点。それから、戦略 2 の DX。それから、戦略 3 の SDGs というキーワードは、今、岸田総理が掲げて

おられますような所信表明演説でも触れられたキーワードだったと思いますので、そこに即した施策だと思います。非常によろしいかと思っております。

特に今後は、やはりコロナを経たということで、DXの導入とか推進というのは、5年10年先にワープしてしまったような感じもありまして、そこは何とか東京が先陣を切ってやっていただきたいと思っております。

それから、2点目は、私は交通事業者、航空会社ですので、一言、東京は世界から見たときに、先ほど副知事のお話にもありました魅力ある都市、世界的にも有数な都市だと認識をしておりますので、日本の玄関口である魅力ある東京が、日本の地方も活性化するような勢いとか意気込みでやっていただきたいという切に思っています。

予算の構成上、都の予算ですから、多摩・島嶼地域ということになるのでしょうかけれども、それにとどまらず、この資料でいけば3章の施策2のところ「国内観光の活性化」というようにも書かれておりますので、このキーワードにひっつけて、日本の地方を元気にするような、ぜひ横綱相撲を取っていただきたいと思っております。

あわせて、交通事業者としましては、やはり日本の玄関口である空港の整備、あの周辺の、東京都としてやれるところというのはいろいろ限界とか制限があるのかもしれませんが、ぜひ空港とか主要な駅とか、あるいは地下鉄とか、ああいう交通インフラに対する支援とか目配せもお願いしたいと思っております。

以上です。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

それでは、引き続き御意見を賜ればと。

お願いいたします。

#### 【武内委員】

ありがとうございます。日本コンベンション協会の武内と申します。

コンベンション協会ですので、主にMICEに関してお話をさせていただきます。

まず、第5章で東京2020大会のレガシーに関して触れていただいています。これは、いろいろなシステムや成果をレガシーとして残す、ということで挙がっているかと思えます。MICEについては、2022年ですと、まだ明らかにウィズコロナの中で振興していくこととなりますので、その際に非常に大きな成功事例として取り上げられると思っております。

その意味では、オリンピック・パラリンピックの成功を、バブル方式を含めた安全安心な開催についてのアピールとして大いに活用いただくと、より東京らしいといえますか、効果的ではないかと思っております。

それから、MICEにつきまして、各戦略、施策と横軸に取り扱っていただき大変ありがとうございます。非常に分かりやすくしていただいたと思っております。

その中で、今、MICE業界で話題になっていますのが、MICEの意義についてです。MICEは、誘致するということが、ファーストステップであり非常に大事であるのですが、このウィズコロナにおいては、ハイブリッド方式により、リアル参加の他にオンライン参加という形が採ら

れています。リアルでの参加の本格化は、コロナ禍の状況がもう少し落ち着いてからになると思いますし、国内・国外により状況も違うかと思うのですが、開催地への経済効果、フェース・トゥ・フェースの交流、それからセレンディピティー、参加者同士の偶発的な出会いを考えたときに、大変重要になってくると思っております。

より開催地に足を運んでいただくということでは、もちろん MICE のプログラムやあらゆるイベントの魅力が大事なのですが、それと同時に、ここに来る意味がある、東京だから行きたいと感じてもらえる観光との連携が、MICE においてより必要になってくると思っております。

現状、特にそういった記載はありませんが、観光の魅力を通じてリアル参加への働きかけをしていくという連携もぜひ必要になってくるのではないかと考えております。

最後に、このコロナの状況から、MICE に限らず観光事業につきましても、人材の確保が非常に難しいのが現状です。観光は特に言われておりますが、この機において業界から離れていくということが起こっているのではないかと考えます。

人材育成に関してはよく取り上げられるのですが、確保の点、それはインターンシップ等での若い方々へのアプローチももちろんですし、一度離れた方に戻ってきていただくことも重要と考えております。コロナ禍を経ての新たな観光産業は、長期的に見れば非常に有望だと思っておりますし、MICE も当然そのように思っております。そこに対する人材の確保にいかん力を入れていくか、どうしたらいいかということに関しての検討は、非常に重要と認識しております。こういったことにもお力添えいただければと思っております。

以上です。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

山本委員、お願いします。

#### 【山本委員】

MPI の山本です。

私も MICE について発言したいので、武内委員の後に続けて話させていただき、MICE の中でも MI、企業が行うイベントを中心に話します。

まずはじめに、先ほど武内委員がおっしゃったように、例えば MICE の I であるインセンティブは特に観光の要素を多く含んでいます。国際会議でも、プレ/ポストのツアーなどは観光要素を含んでいるため、観光との連携というのは私も賛成です。

本日は3つお話ししたいです。一つ目は、情報発信です。今、都としての情報発信がすごく大切になってきているかと思えます。先ほどの『コンデ・ナスト・トラベラー』のランキングで東京が上位に上がってきて、ますます認知度が高まっています。ほかの方に聞いても、やはり東京、日本というのは、うまく東京オリンピック・パラリンピックのときから感染を抑えているというイメージはあるのに、例えば、現在、ワクチン接種率が日本が約 80% 近くになっているというのはほとんど知られていないそうです。どちらかというとオリパラ期間中のワクチン接種率が海外メディアから発信されたので、そのまま情報が止まっているところがあるのではとか考えています。

正確な情報をどんどん発信していかないと、今の隔離の状況からして、海外から東京での MICE を考えていても、実際に契約に至らないということになり、回復が遅れてくる。そうすると、もうインバウンドの回復は 2023 年、2024 年となってきますので、諸外国や海外の他都市に案件を取られてしまうという、事業者としては非常に歯がゆい気持ちです。ほかの国、例えば韓国などは、昨日でもソウルは新規感染が 7,000 人ぐらいいましたが、それでもどんどん新しいことを発信して動き出しているの、ぜひ東京もデジタルマーケティングとかウェブサイトなどを通して、最新情報を発信してほしいと思います。

二つ目ですが、具体的には、海外トレードショーへの参加というのが、絶対必須だなと思いますので、国境が再開したら、どんどん外に出ていくことが大事です。

先般 11 月に行われた IMEX アメリカ、世界最大の MICE のトレードショーでは、3,300 名のバイヤー、2,200 社以上が出展、5 万件以上のアポイントメント実施という結果になりました。2019 年に比べて 80% 戻っているのです。ただ、残り 2 割というのは、やはりアジアからの参加者が少なかった。諸外国から見るとアジアが感染源というイメージがあり、なかなかアジアへの誘致自体が難しいことになっていると思いますので、やはり東京が先陣を切って、このようなトレードショーに出展して、直接リアルで商談会を進めていって、東京にグループをどんどん呼び込んでいってほしいなと考えます。

現在でも東京に入って来ている案件で、すでに 2 回ぐらい延期になっている案件も多いのです。2020 年にやろうと思ったけれども、無理だから 2021 年、そして、今もう 2022 年へと延期している案件も多数あります。ぜひ、このようなことがないように発信していってほしい。

あとは、やはり実際に見てみないと分からないということもあるので、少し大きめなメガファム（ファミトリップ）の実施をお願いしたいです。

海外からの日本全体のイメージは、動きは遅いけれども、何かうまく感染を抑えているなというイメージです。でも、実際に来てみて、本当にコロナで変わった東京、あるいは変わらない東京、そして、この新旧の交差する中での魅力的な東京というものを、やはり主催者やミーティングプランナーに見てほしいです。実際に体験したことが口コミで広がっていくし、海外メディアなどに取り上げられてくると非常にいいなと思います。

ただし、コロナの影響もあって、今、トレンドとしては小規模、分散化、オープンエア、アウトドア、サステナビリティ、SDGs、そしてウェルネスというのがキーワードですので、一気に 100 名呼ぶとかではなくて、40~50 名程度に抑えて、東京の先進エリア、ビジネスエリア拠点である六本木とか丸の内とかや重点拠点である多摩地域などとも連携して、自然の中にお客さんを連れていくとか、分散化して 10 名程度でアクティビティをやっていくなどを考えると、今のニーズに合うと思っています。

三つ目に、ユニークベニューのことを言わせてください。

ユニークベニューは、現在、東京に 69 できました。できましたけれども、スムーズに使えるユニークベニューがどれだけあるのかと考えていくと全部ではないです。量から質の時代になってきているので、これからは量を増やすのではなくて、既存の中で使えるユニークベニューを精査して行って欲しいです。例えば使えるユニークベニューがあり、キッチンもそこにあるのに、

このキッチンは、その施設主催のイベントだったら使えるけれども、外からのケータリングだと使えないというようなことがあります。保健所の問題とかいろいろあり、結局のところ使えないというような話も出てきています。私もユニークベニュー部会長をしておりますので、これから1年ぐらいかけて、なぜできないのかというところを、一つずつ少し潰していけたらいいと考えていますので、そのところも重点的にお願いできればと思います。

最後に、先日 TOKYO LIGHTS というプロジェクションマッピングのイベントがありました。東京を元気にするためにもいいイベントでした。都民の皆さんも、きっとそう思ったと思います。こういったイベントがあると世界に発信していくことができる。例えばこういうイベントに合わせて企業のインセンティブや国際会議などを誘致すると、プレミアムシートを企業向けに50席特別販売するとか、魅力的なコンテンツにもなるのかなと考えました。

イベント自体は世界水準以上のものだったと思っています。ナイトタイムが弱い東京と言われているので、そのナイトタイムのコンテンツの一つとしてもいいかと思いました。

#### 【大下会長】

かなり熱い思いをお持ちであったということがよく伝わりました。

それでは、引き続きましてよろしく申し上げます。

#### 【新津委員】

ジャパンショッピングツーリズム協会の新津と申します。よろしくお願ひいたします。

私からは3点。プラン全体像、2つ目が施策事業化に当たって留意いただきたいこと、最後に小売業としての発言をさせていただきます。

まず、全体像についてですが、オリパラが終了して、まだコロナ感染が収まらない中で、非常に難しいタイミングだったと思いますけれども、非常にすばらしくまとめていただいていることにまず敬意を表したいと思いますし、このプランで賛成をしております。

特にプランの第2章ロードマップの中で、フェーズ2、フェーズ3と、観光振興、観光プロモーション始めるタイミングが、この2年間の中では非常に難しいのだろうと思っています。都や国の安心安全を守るというスタンスの一方で、観光客の方と事業者は、もう既にかなり前向きに観光に取り組みたいと思っています。このバランスを取るためにも、観光客の方、あるいは事業者と都の間で綿密に意見交換、情報交換をするような場を持ちながら、タイミングを逸せず、早過ぎずというような取組を進めていただければと思っています。

2つ目に施策、事業化に向けてでございます。先ほど藤崎委員からもお話がありましたが、世界屈指たる東京としての観光戦略を意識した施策の振興を進めていただければと思っています。

ブランディングに基づいたPRは進めていただいております。事業者や都民をリードしていく、今の時代に合った、例えばサステナブル、あるいは安心安全のモデルケースになる事業を進めていくのが、この2年間の重要な施策化のポイントではないかと思っています。これも藤崎さんからお話がありましたが、全国との連携はオリパラ前の段階でも重要でしたが、私はそれ以上に日本全国の魅力が東京に詰まっているショールームであることが、東京自体の魅力にもつながると思っています。都民の方にも十分理解をいただいて、全国の魅力を東京が紹介していくことにも積極的に取り組んでいいと思っています。

最後、ショッピング、小売業としてのお話をさせていただきます。

小売業の役割につきましては、施策7の中で取り上げていただいております。小売業は東京の魅力的なコンテンツの一つである自覚を強く持ちたいと思っております。事業者に対してもそのように促してまいります。

小売業においては、夜間・早朝の魅力であるというのは、今も行っております。営業時間が短縮されたこの後においても、意識的に観光客の方に早朝・夜間の利便性を含めた魅力を提供していく取組にチャレンジしていきたいと思っております。これまであまり取組のなかった富裕層の方へのアプローチなどについては、MICEの観点からも連携をしてまいります。最後に、最も大きい消費を促す、あるいは経済効果を都にもたらす役割についてしっかり意識して、事業者の参画を促し、私どもも努力していきたいと考えております。

私から以上です。

#### **【大下会長】**

どうもありがとうございました。

ほかにいかがでございますか。

平澤委員、お願いします。

#### **【平澤委員】**

東京商工会議所の平澤と申します。よろしくお願ひいたします。

プラン案の基本理念でございますけれども、まず、観光産業の復活を掲げられております。長引くコロナ禍で疲弊する都内の観光関連産業からは、私ども商工会議所にも悲痛な声が届いております。観光関連産業の早期復活に向け、大変心強く感じておるところでございます。

また、サステナブル・リカバリーの実現ということで、ポストコロナを見据えた東京のニューノーマル観光の在り方を象徴する強いメッセージと考えております。

加えて観光産業復活に向けたロードマップの提示ということで、私どもも要望させていただいております。受け止めていただいたものとして、感謝を申し上げます。

東京商工会議所といたしましても、引き続き東京都と連携させていただいて、観光関連事業者の支援に取り組んでまいりたいと存じます。

その上で3点ほど意見を申し上げます。

1点目でございますけれども、サステナブル・リカバリー、それから、持続可能な観光都市の実現ですが、住民、自治体、関係団体など、多様な主体がそれぞれの役割、責任を果たす観光地経営の視点が重要と考えております。

その基礎となりますのが、都民が東京に愛着、誇りを持つこと、シビック・プライドの醸成、東京のブランド価値向上と考えております。プラン案にも盛り込んでいただいております。感謝申し上げますが、ぜひとも具体的な施策の実施に当たっては、次代を担う子供たち、特に高校生の観光教育について、東京都教育庁とも連携の上、長期継続的に展開をしていただきたいと思います。

2点目でございますが、3つの戦略とは別にMICEの誘致の推進を盛り込んでいただいております。開催都市としての優位性を保つためにも、国際的な往来が本格回復

するまでの間、比較的早期に再開が見込まれる国内 MICE の開催につきましても積極的な支援をお願いしたいと思います。

また、インバウンドの早期回復を見据えた東京の国際競争力強化に向けましては、都市部の魅力の訴求が大変重要と考えますので、今からぜひとも具体的な施策の検討と実施をお願いしたいと存じます。

最後ですが、推進体制でございますが、地域の観光推進を考えますと、国や東京都、関係団体はもとより区市町村の役割が重要と考えておりまして、プラン案に盛り込んでいただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。

特に東京都と区市町村、さらに区市町村間の連携が重要と思っております。隣接するエリアに影響が及ぶ、あるいは単独での解決が難しい課題、例えばコロナ対策にも対応した観光危機管理やオーバーツーリズムの問題などにつきまして、都と区市町村だけではなく、区市町村間の連携への後押しなども、具体的な施策の実施に当たってはお願いをしたいと考えております。

私から以上でございます。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

先ほど田口委員から挙手をいただきましたので、田口委員、お願いします。

#### 【田口委員】

ありがとうございます。

皆さんもういろいろおっしゃってくださっているのですが、やはり東京のオリンピック・パラリンピックが、皆様の御尽力と御理解のおかげで無事終わりました。

最初に名乗っていませんでした。私、パラリンピアンズ協会の副会長を務めております。

私も、このオリンピック・パラリンピック開催中は、選手村の副村長とか射撃場でボランティアとかを行っておりまして、各国の団長とか選手とかとコミュニケーションというか、いろいろお話をしたのです。そのときに皆さんがおっしゃっていたのが、とても人が優しいし、食事もおいしいし、選手村も最高だし、でも外に出られないのはやはり残念なんだよねと言っていて、選手村から選手やスタッフたちはみんなバスで移動していたのですけれども、その窓から見える景色がとても魅力的なのだけれども出られないんだよねと言っていました。

私も、ぜひ、このコロナが落ち着いたら戻ってきてくださいね、遊びに来てくださいねと言ったら、皆さん「Sure」と言って、もちろん来るよと言っていました。もちろん、数としては少ないのかもしれないのですけれども、せっかく東京で開催したわけですので、各国の NOC・NPC、オリンピック委員会・パラリンピック委員会と何か案内を送るとか、今でしたらメールとかいろいろありますので、せっかくの開催都市ですので、連携を深めていただければと思います。

私自身もパラリンピックに過去出まして、やはり自分が出たときのあの都市はどうなっているのかな、行ってみたいなとか思いますし、実際に行ったところもありますので、今回は選手・スタッフ、皆さん外に出られませんでしたので、そういう意味では、そういう何か案内を送ったり連携を取っていくのが大切なのではないのかと思いました。

そして、パラリンピアン立場としては、やはりバリアフリーという部分です。2019 年でし

たか、東京都のホテルのバリアフリー条例を出していただきまして、まずはその進捗状況というのがどういうものかを知りたいと思います。

また、一方で、せっかくバリアフリールームをホテルに造っていただいているのですけれども、実際にインターネットで予約ができないホテルがほとんどなのです。ダブルブッキングとかを懸念されているのだと思うのですけれども、結局、探してもまた1個ずつ電話して、「空いていますか」「空いていますか」と聞かなければいけないのです。それは、私たち日本人でしたらまだそれがと思えるのですけれども、海外から例えば予約を取ろうと思ったときになかなかできないですね。そういうのも、ぜひ皆さんで力を合わせてデータをアップしていただきたいと思います。

そして、バリアフリールームも大切なのですけれども、条例のときにお話ししましたとおり、例えば私でしたら手は全く問題ないですので、段差とかがなければ、扉の広さがある程度あれば普通にホテルが使えるのです。ただ、段差があるかないかがネットでは分からなかったりするのです。そういうのも、せっかくこれだけネットで皆さんがいろいろなことを検索できる時代ですので、力を入れていただきたいです。それがホテル業の方たちだけではやはり厳しいと思いますので、ぜひ東京都としても、そういうものもバックアップとか助成金とかを出してやっていただきたいと思います。

そして、東京オリンピック・パラリンピック、当初は皆さん、無観客とかコロナになる前に、いろいろなところでアクセシブルマップというのをつくっていただいたのです。車椅子ユーザーがどう動けるか。ただ、それはそのときつくっただけだと駄目ですね。それを更新していく、アップデートしていくというところに力を入れていただきたいと思います。

そして、最後になるのですけれども、先日も私が空港を利用したら、空港はすごくサイネージが分かりやすく、どこにお手洗いがあるのか、どこにエレベーターがあるのかというのがすごく分かりやすいのですけれども、駅はどんどん拡充していったり広げていったりしているからか、なかなか分かりづらいです。東京駅とかはもう迷路になっています。どこに車椅子用トイレがあるのか、どこから行けば丸の内側から八重洲側に行けるのかとかが分かりません。私もふだん使っていても、あれ、どうだったっけなと思いますので、地方から出てきた人、あと、海外から来た人というのは分からないので、ぜひ、まず東京から、例えば駅のサイネージを統一化していくとか、そういうのを考えていただければと思います。

以上です。ありがとうございます。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

次はいかがでございますか。

白石委員、お願いします。

#### 【白石委員】

日本航空の白石でございます。いつも大変お世話になっております。

今回御提示をいただいております観光産業振興実行プラン全体像につきましては賛同させていただきます。我々も航空運送事業者として、このプランの実現に向けて最大限協力をさせていた

だきたいと考えております。

私からちょっと個別具体的な課題ではあるのですが、3点コメントをさせていただければと存じます。

まず、1点目、コロナの感染拡大防止の対策に加えて、万一旅行されていらっしゃる方々がコロナに感染した場合の対応、こちらを東京都のコロナ対策関連部局と密接に連携をしていただきながら、マネジメント体制、これをしっかりと整備をしていただければと存じます。

2点目は、戦略1の施策2になりますけれども、国内観光の活性化、こちらにつきましては、まず、これは今年度から来年度にかけての取組となり、スコープがやや異なりますけれども、都民割、さらには地域グループ拡大の実現をしていただいて、東京都、首都圏の観光事業者様の経営基盤、これをしっかりと維持していただくような取組をしていただければと思います。

加えて、首都圏からの交流人口の拡大により、都民の皆様の観光への理解、さらには振興にもつながると考えておりますので、今御検討していただいていることと存じますが、私からもお願いをさせていただければと考えております。

最後、こちらでも戦略1の施策2になりますけれども、海外プロモーション展開。こちらは先ほど藤崎委員が御発言された内容と全く同じでございます。東京都とされましては、日本の玄関として、東京のプロモーションのみならず日本の地域、首都圏近郊の魅力など、日本全体のプロモーションをぜひ志向していただいて、このオーバーツーリズムの解消やさらなる誘客に向けた日本全体の宿泊施設のキャパシティの確保、こういうところも実現をしていただければと考えております。

既に東京プラスワンというプロモーションを実施していただいていることは存じ上げておりますが、さらにこちらでも強化していただければと存じます。これにつきましては、我々航空運送事業者としても最大限協力させていただきたいと考えております。

私から以上でございます。ありがとうございます。

#### **【大下会長】**

ありがとうございました。

工藤委員、お願いします。

#### **【工藤委員】**

東京都ホテル旅館組合の工藤でございます。

この観光プランに関しましては、大変素晴らしいものだと思っております。私どもは2年間、既に県をまたぐ移動は控えるようにという、これは感染防止の観点からやむを得ないことだったと思うのですが、違う言い方をすると、我々の商売をするなというような政策だったと思います。それは致し方ないことなので、受け入れてここまで来ておりますが、既に相当息切れ状態が続いております。

この観光プランが実施された暁には、未来が非常に明るいと思うのですが、これがいつ始まるのだろうか、それまでのつなぎはどうなっているのだろうかというのが非常に心配になってまいりますので、これが早くスタートできるように、また、これがスタートするまでの時間、どれぐらいかかるか正直分からないと思いますが、またつなぎとして何が出来るのか、そういうこと

も視野に入れて御検討いただきたいと思います。

以上です。

**【大下会長】**

ありがとうございました。

今、オンラインで参加いただいている河村委員から挙手がありましたので、河村委員にお願いしたいと思います。マイクをオンにしてお願いいたします。

**【河村委員】**

三鷹市の河村です。

今までのお話で、基本的に賛成ですし、この計画も素晴らしいものだと思います。ただ、時間もありませんので一点だけ言わせていただくと、東京都の観光事業審議会ということで、東京都のことがまず最初に来るのではないかと考えています。全国の皆さん、あるいは首都圏の皆さんに対しても、もちろん考えて、東京がその顔であるというのはそのとおりなのですが、まず、東京の地域の中で、区市町村ということで、区部と市部と奥多摩のほう、伊豆諸島のところもあります。それぐらい東京といってもバラエティがあって、まさに多様性の象徴なのです。

ですから、私としては、できたら、今回のオリンピック・パラリンピックで、東京都も主張されたと思いますけれども、例えば都心の六本木とか、そういうところで、非常に近代的な東京の顔があるとすれば、住宅地のところも、あるいは奥多摩のところも、海の周辺も、それぞれ違う多様性を持っていて、1か所は知っているけれども、その違うところは、日本全国と同じように、まだ知らないという方もたくさんいらっしゃいますから、今のように冷え込んでいる場合には特に、東京のいろいろな顔を、まさにスタンプラリーのように回っていく、そういう東京全体の構想を都としても考えていただきたいなど。

まず、日本が元気になるためには、東京が元気にならなければいけない、そのためには、各地が全部、まさにそこで観光化していくことがもっともっと必要ですから、そういう視点で、1か所に行ったら違う顔の東京を見てわないと、地域も活性化しませんから、ぜひスタンプラリー的な発想で、デジタルも含めていろいろな活用で盛り上げていただきたい、そのように思っています。

いろいろありますけれども、この1点だけ意見を言わせてください。よろしく申し上げます。

**【大下会長】**

ありがとうございました。

簡潔な御意見で御協力いただきまして、ありがとうございました。

それでは、ちょうど真ん中ぐらいになりましたので、今日、隣に副会長がいなくて非常に不安なのですが、副会長、この辺りで御意見の取りまとめも含めてお願いできればと思います。

**【高崎副会長】**

本日はオンラインで参加させていただいておりまして、ありがとうございます。

全体像として本当に的確にまとめていただいております、交流に携わる者としては、しっかり実行できるように取り組んでいきたいと思っております。

その上で、私から5点、コンパクトにお話を申し上げます。

1 点目ですけれども、まず、プランの意義の観光を巡る最近の動向というところで、新しい旅行スタイルの動き、これをまとめておられます。ここで重要なのは、やはりテレワークなどの働き方改革が進み、働き方が変化したことで、ビジネス環境、それによる需要というのも大きく変わっています。働き方が変わったということで、ビジネスで失うことになる収入を観光で補う必要性があるのではないかと。特に飲食店は、このビジネス需要が蒸発して、家賃も高く苦戦をいらっしやるということをお聞きしますので、ある意味、インバウンドに少し抵抗を示していらっしやるような老舗のお店にも、観光も大事だと認識をしていただくという機会になるのではないかと。今の間にインバウンドに適用するための環境整備やマインドセット、これを行う必要があるのではないかなというのが1点目です。

2 点目、第3章の施策3のアクセシブル・ツーリズムなのですが、ここに障害者だけではなくて高齢者が記載されているということがとても意味があると考えます。先ほどからお話が出ているように、オリパラが終わりまして、東アジアというのは、日本と同様に高齢化が進んでおります。ヨーロッパなどの長距離路線はなかなか厳しいけれども旅行はしたいというニーズの中で、日本が選ばれるという状況になっておかなければいけないと思っています。

そういう意味では、バリアというのは、障害者だけではなくて、高齢者、外国人という視点、これをしっかり追加をしていただき、インバウンドの戦略上、重要な取組だということも打ち出すべきだと思います。

3 点目として、今まさに違う顔、東京の多様性を重要視するというのを河村委員がおっしゃられていたのですが、第3章の施策5の観光資源の磨き上げのところでは、ここは特に改めて、多摩・島嶼地域の可能性について考えるべきだとお願いしたいと思っています。

特に世界最大の都市であり、インバウンドに人気の東京から飛行機で25分、お船でも1時間から1時間50分、そういった非常に近い距離にある伊豆諸島宝島だと我々は考えています。首都圏から一番近い離島、海外の都市圏近くの離島は、観光地としても人気のスポットですので、どちらかという過疎地対策を連想させるような割引といった施策ではなくて、リゾートとしてのリブランディング、高付加価値化というところが望ましいのではないかと考えます。

4 点目はMICE だったのですが、もう既に御意見がたくさん出ておりますので、ここは割愛をしますが、MICE というのとちょっと関連して1つだけ。インバウンドの具体的な取組のところにWi-Fiの設置があります。ここなのですが、お客様からの声で、Wi-Fiが設置してあっても、つながりにくい、遅いといったお声があることもまた事実です。なので、設置数ということにこだわるのではなくて、スピードとセキュリティ、ここにこだわっていただきたいと考えています。遅いWi-Fiというのは都市の格を逆に落としかねないと考えます。

最後、5 点目ですが、ここはもう皆さんお話が出ていましたが、このプランを実現するということでのゲートウェイとしての東京の役割ということです。

やはり感染が収まるまでは、インバウンドではなくて、都民の方々の地方への旅行というのが、我々観光業にとっても非常に重要です。マイクロツーリズムということが流行したのですが、近距離のお客様というのは、やはり財布のひもも堅い。東京からのお客様というのは、消費額も圧倒的に高い。そういう意味では、東京都は日本を代表する都市、観光を支える都市という

意味でも、東京都民の皆さん方の国内旅行の推進というのが非常に重要で、関東広域 DMO との連携や、Tokyo & Around Tokyo ということを並行して進化をさせることが重要だと思っています。

我々は、マイクロツーリズムから「エリアツーリズム」へと今言っていますけれども、周辺県との連携による東京圏の広がりということを感じさせるということが大事だと、私見ですが考えております。

以上、本当によくまとめていただいて感謝をしているということが大前提として、気がついた点と、皆様方にちょっとお話をさせていただきたい点、5 点、お話をさせていただきました。会長、ありがとうございます。

### 【大下会長】

ありがとうございました。

真ん中でまとめておいていただくと最後が楽になるということがよく分かりました。

座席で左に座られている委員ばかりだったのですが、右側に着席の委員からも。

三辻委員から挙手がありました。早かったのが、斉藤委員、先にお願ひします。三辻委員は、その後でお願いしたいと思います。

### 【斉藤委員】

斉藤やすひろでございます。今日はありがとうございます。

3 点ほどあるのですが、他の委員との関連から申し上げたいと思います。

まず、オリパラの関係です。オリパラのときに、ツイッターなどでは様々な選手が日本のすばらしさを発信していただいていたいました。大変に残念なお声があつて、帰国されているわけですが、まさにそのレガシーとして、ぜひプロモーションをする場合に、このアスリートの皆様をインフルエンサーとしてしっかり位置づけて、国内に呼び込むということを他局と連携してやっていただきたいと思います。

特に、教育庁などは、この感動を、今だけではなくて、これからの子供たちに伝えていくということで、もう既に事業化の検討はしていますので、そういうところにお招きすることも含めて、例えばオリンピック・パラリンピックのアスリートだったよということで来日するのですが、その方に、ぜひ日本国内、東京都を本当にスタンプラリーのように回っていただいて、日本のすばらしさを、東京のすばらしさを世界の皆様に発信をしていただく位置づけでお招きするということとはとても大事ではないかと思いました。

2 点目ですが、これは事業者として工藤委員のお話でもあるのですが、実は金融の話です。つなぎ融資がとても重要な事業が観光であると思います。

今回、この全体ですばらしいまとめの中で、事業者の現場の声ということで言えば、いつその施策がスタートするか。もう今日、あしたの問題でお金が必要だ、今まで 100 年の老舗を守ってきた、だけれども、あした倒れてしまうかもしれないという方々に対しては、ぜひ融資をしっかりと行っていくことが必要です。

ただ、今、補助金が大変走っていますので、様々な補助金もう訳の分からないような、スパゲッティのような状態になっていますので、これをちゃんとひもといていく力が絶対必要だと思います。そういった意味が 1 つ。

それから、つなぎで言えば、P0 ファイナンスといった、新しい債券をデジタル化して、先に補助金が出るのだったら、執行される前にお金を信用金庫に信託の仕組みを使って執行するという仕組みもできています。こういったものを、各信用金庫の方々もよく理解をして、事業主の方々に、ただ単に返さなくてはいけないお金はこうですよという説明だけではなくて、新しい手法の P0 ファイナンスというパーチェス・オーダーメイド・ファイナンスというものもあるので、そういったことも駆使しながら、できるだけ早く事業者の方に現金をお渡しする仕組みも、私は短期ですけれども重要であろうと思います。

最後になりますが、これはアクセシブル・ツーリズムの関係でございますけれども、インクルーシブデザインと申しますか、大変な方のお声をちゃんと聞くことが重要だと思います。

ホテルは、せっかくバリアフリールームを持ったのですが、移動するには公共機関を使わなくては行けない。公共機関を使うときに、一回出たら、どこでそういうトイレができるかがもう不安でしょうがない方々は移動できません。ですから、事前にどこに何があるかということを知らしめておくことは非常に重要である。

そしてベッドも、成人が車椅子から降りたときに、床に降りなくて済むような大型のベッドを、ちゃんと各公共のトイレには設置することが必須だと思います。

そうした本当に困った方々のために、それを実現することで、より多くの方々が恩恵を被ることができるのがインクルーシブデザインのよさでありますけれども、ぜひとも、トイレ一つ見ても、まだまだ障害者の方が安心して移動できるような環境がありませんので、これを、ぜひソーシャル・インパクト・ボンドなども活用しながら、全部税金でやる必要はありません。そういったことのお声かけが得意な人に、ホテル業界にぜひプッシュをしていただいて、そうしたことの情報発信を、みんなで力を合わせてやっていくことが重要であると思いましたので、ぜひ取組をお願いしたいと思います。

以上です。

#### **【大下会長】**

どうもありがとうございました。

それでは、三辻委員、お願いいたします。

#### **【三辻委員】**

大島町長の三辻です。本日はどうぞよろしく申し上げます。

まず、この実行プランの中で、施策5と7に多摩・島嶼地域、この施策を掲げていただきましてありがとうございます。

私からは参考として、この関連として、大島町の取組状況を簡単に報告します。

まず、このコロナ禍ですが、大島町においても、社会経済活動に与えた影響は大きくて、来島者数の現状は、コロナ禍前の令和元年と、あと、令和2年1月から東京都における緊急事態宣言解除となる令和3年9月まで、これを比較しますと、約22万人、51%の減少となっています。

仮に、島民を除いた、いわゆる来島者1人当たり、主に観光客ですけれども、宿泊代や食事代、土産代など、大体1万9000円程度を消費すると言われていています。それを推計しますと、35億円を超える観光客消費損失額となっています。

これに伴って、受入れ側の島も、人件費とか仕入れ等の経費、光熱費、そういうのも少し減少はしていますけれども、一概には言えませんが、大きな損失額であることは間違いなく、東京都も町も一定額を支援しましたが、正直、この人口7,300人の島にとって、この影響は計り知れません。

大島にとっても、ほかの島も同様ですけれども、コロナ収束後の社会経済活動を回復させるためには、まず1人でも多くの来島客数を確保しなければなりません。

観光産業は裾野が広く、商業及び農業、交通事業など幅広い経済効果が期待でき、あと、社会経済活動を支える役割が大きい経済成長の即効性の高い産業です。また、島にとって来島者が増えることにより、人口減少等の過疎化のスピードも緩和されます。

ただ、今、コロナの収束が見えず、思うように出口戦略を打てない状況となっていますが、コロナ禍の時代、観光を再生するために、人々の観光への価値観も大きく変わりつつあり、今以上に、旅行形態も少人数、分散型が主流となるため、以前から言われていましたけれども、数の観光から長く長く滞在してもらい、繰り返して来てもらうという質の観光への転換が重要となっています。これもこの実行プランに書いていました。

そのためには、旅行客を引きつけるブランド力、これを磨くことが必要となってきます。観光地大島の一番の切り口である地域資源を生かした観光振興を推進するにはどうしたらいいかです。

観光振興において、観光地としての地域独自の魅力をつくることが重要であります。これは言い換えれば、ほかのどの地域でもなく、その地に行ってみたいと思うだけの価値を強くつくること、本物の地域の観光資源として活用することが最も重要だと言えます。

また、一つ一つの地域資源は、観光の大きな資源にはなりません。地域資源をまとめることで大きな観光資源となります。そのため、本物の地域資源をまとめて観光資源として活用するためには、大島はジオパークに認定されていますので、この伊豆大島ジオパークを活用し、様々な手法により地域の経済活動と結びつけながら、地域資源の魅力を分かりやすく伝え、巡り、味わい、楽しめる環境整備を図ることが有効です。

それと、もう一つの柱となる、スポーツアイランド伊豆大島としての観光振興についてですが、あいにくコロナ禍により、昨年、今年は大部分が中止となりましたが、現在、大島では、カメラアマラソン大会、トライアスロン大会など、様々なスポーツイベントを実施していき、活気にあふれ、それぞれ効果を出し、観光振興に寄与しております。

特に、5年ぐらい前に行われましたアジア自転車競技選手権大会と全日本自転車競技選手権大会の効果は大で、サイクリストの姿を見ない日はないぐらいと言っても過言ではありません。

今後も、このサイクルイベントを拡充するとともに、サイクリストの満足度を高めるために、受入れ環境の整備と誘致を促進していきます。

以上、大島の観光振興の2つの柱について述べさせていただきましたが、地域の観光地としての価値は一朝一夕にできるものではなく、複数の主体が継続的に取り組んでいくことが不可欠であります。すぐに大きな成果が出なくとも、継続的な取組の中で小さな成功体験を積み重ね、少しずつ価値を高めていくことが重要であります。

そして、観光地の価値は、時間の経過とともに変容するものであり、時代の変化に合わせて新

しい価値を生み出し続けなければなりません。長く観光地として魅力を保ち続けるためには、そうした変化に対応しながら、新しい価値を創造し続けることができるようにしなければなりません。

あと、私がもう一つ期待していることは、洋上風力発電の導入です。

大島は、令和2年度に国の浮体式洋上風力発電による地域の脱炭素化ビジネス促進事業委託業務に採択され、令和5年度までに、海象・風況観測解析調査、設置海域の検討、発電設備候補調査等を実施する予定であります。

地産地消型の洋上風力発電を導入することは、国や東京都が積極的に推進しています脱炭素化への取組だけでなく、いわゆる再生エネルギーの島、エコの島としての新たな観光資源創出としても期待されています。

先般、東京宝島推進委員会の先生と話す機会がありまして、再生エネルギー、エコの島は、特に若い方、いわゆる今で言うZ世代、その取組に有効であるという助言をいただきました。

ちょっと長くなりましたけれども、私からは以上です。どうぞよろしくお願いします。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

かなり逼迫した状況がよく分かりました。

先に、オンラインのほうで参加いただいている高井委員さんから挙手をいただいていますので、まず、先に高井委員さんのほうからお願いして、その後に三宅委員にお願いしたいと思います。

#### 【高井委員】

ありがとうございます。

神奈川大学の高井です。今日も前回に引き続いてオンラインでの参加で失礼いたしております。

このコロナの約2年間ぐらいに、私も教育の面でもいろいろな変化もありましたし、同時に、観光事業で一番打撃を受けているいろいろな現場の方、特にインバウンドに力を入れていた事業者の方とかとの勉強会とか、いろいろなプロジェクトをやってくる中で、これまでになかった横のつながりができてきたなど。やはり危機に瀕して、みんなで知恵を共有し合って、コロナの後、どうするかという話が非常に進んだなど思うのです。

ただ、一方で、それがすごく内向きになっていて、観光事業に関係している人とそうではない住民の方、この人たちの観光に対する見方が、ギャップがすごく増えてきていると。これまでほかの委員の方からも御発言があったと思うのですが、同じ事業所でもインバウンドには後ろ向きの方がいてということで、高崎副会長が、この間にマインドセットを変えていこうという話がありましたが、非観光関係の方というのは、自分が観光に行くことに対しては、コロナが終わったら早く行きたいと思いつつ、自分たちの地域に、また外国人の人や遠いところの人が来るのが嫌だなどという意識が結構あるというのが、JTB 総研さんの調査とか、その他の学術の調査でもちょっと出てきていまして、そのことをちょっと問題かなと思っているのです。

そのことを考えると、今回のプラン案の中の戦略3の施策6の「地域・住民に寄り添った観光地域経営の推進」というのは非常に私も大事だと思っていて、これを入れてくださったことを非常にうれしく思っています。

既に 11 月に立教大学さんが開催された、大学が一般住民の方に観光の重要性、理解を促進する授業をされました。来月は東洋大学さんが東京都と組んでシンポジウムをされるのですが、こういう授業を来年度以降もぜひ続けていただきたいと思います。

立教大学さんのセミナーは、私もオンラインで参加させていただいたのですが、難しい内容を非常に分かりやすく、有名人の方とかタレントさんが出てきて、エンタメ性もある中で、いわゆる教育とか啓蒙としないで、入りやすい形で観光産業の重要性というのを伝えていただいたのが非常によかったですと思います。

それに続けて、東洋大学さんのほうは、既に先行して動画の配信を始めておられて、そこでは大学の先生たちが割と理論と実践を結びつけた形の内容を公開されているので、非常に高く評価したいと思うので、こういうことを続けていただきたいと。

ただ、立教大学さんのほうはタレントの方とかが出ているので、公開期間が非常に短いのです。来年度以降同じような授業を継続される場合、その出演料の問題とかもあると思うのですが、都民の方が、なるべく多くの方がそれを見られるように、長い時間公開できるようにしていただければなおよいかと思います。

非常に具体的な話でしたけれども以上です。ありがとうございます。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

それでは、三宅委員、お願いします。

#### 【三宅委員】

都議会議員の三宅と申します。

先ほど、大島の三辻町長のお話がありましたので、その続きでと思いまして御発言をさせていただきますと思います。

私も実は伊豆大島出身でございまして、うちは観光事業は直接は携わっていないのですが、間接的に携わっている中で、先ほどもお話がありましておおり、このコロナ禍で、かなり地元の観光関連事業者が打撃を受けたということは事実でございまして。そういった中で、特に島で大変なのは、宿泊業の方々の事業者が高齢化しておいて、これを機会に廃業するという動きも、大島以外の島では現れているということがあります。

そういった意味で、今回、この実行プランの中で、まず観光人材の育成・活用といったことに触れていただいたのは本当に大切なことだと思っております。

また、一方で、観光関係事業者、また、観光施設の老朽化というのも大変進んでいますので、東京都でも様々なメニューがあると思いますが、ぜひその辺は実態に即した支援策、補助を行っていただきたい、そのように思っております。

先ほど、高崎副会長から、島嶼地域は東京の宝島だという御発言がございましたが、まさに、その宝をしっかりと磨いていくのが東京都の仕事であり、また我々の仕事であると思っていますので、その辺は、ともにいろいろと議論をしていく中で、しっかりと地元の宝を磨くような事業をやっていききたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

そして、先ほど、藤崎委員、また、白石委員からも御発言がございましたが、私も、東京は日

本の観光を引っ張っていく原動力だと思っておりますので、交通インフラの充実とか、そういったものをしっかりと進めていかなくてはいけないと思います。それが東京オリンピック・パラリンピックのレガシーにつながっていくのではないかなと、私はそのように思っています。

そういった意味でいろいろなメニューがあると思うのですが、他県との連携という形を、東京都はしっかりと取り組んでいただきたい、そのように思っています。

すみません、飛び飛びになりましたが、先ほど高崎副会長からもございましたエリアツーリズムの件です。

例えば、多摩だと、ちょっと離れば山梨もありますし、秩父も埼玉もありますし、そういった面で、その交通網もしっかりと整えていかなくてはいけない。鉄道、バス、その他、タクシー、いろいろあると思うのですが、そういった面への補助も東京都としてやっていただきたい。

また、島に関して言いますと、大島から熱海、伊東、館山、江の島、これを面で捉えると、まさにそこは全て観光地でございますので、船会社、航空会社に対する支援もぜひ行っていただきたいというのが意見でございます。

いずれにせよ、このコロナ禍、なかなか終わりが見えない中で、皆様方、施策を打つのも大変だと思いますが、しっかりと実態をつかんで、事業者の方々の立場に立ってその辺に取り組んでいただきたい、そのように思います。

以上です。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

保坂委員、お願いします。

#### 【保坂委員】

東京都議会議員の保坂です。

私からも、今回のプランについて意見を述べさせていただきます。

このプランは、アフターコロナ、2030年に向けて、東京の観光産業発展のまさに骨格となる大変重要なプランであると認識しています。この約2年にわたる新型コロナによります観光への打撃、これは東京だけではなく日本中、世界中の都市も同じ状況であるということでもあります。

東京は、東京2020大会の成功、また、感染者数の圧倒的な抑制、こういった衛生面での世界的な評価も高まっています。一方で、デジタル化の遅れ、環境対策など、大きな課題も残しております。強みをさらに伸ばすと同時に、弱点を強みに変えていくために、この計画を推し進めていただき、世界の都市間競争に遅れないよう、スピードも上げていくことが重要です。

プランの中での観光産業の復活に向けた、例えばロードマップで言いますと、フェーズ1、2の旅行需要回復に向けた事業者の取組を支援して、国内旅行者を誘致していくための様々な施策を、着実に、またスピード上げて進めていくことが重要ですが、同時にこのスピードに中小企業の皆さんも遅れることないようにしっかりとフォローしながら、なるべく早い時期に、フェーズ3のインバウンド受入れ体制の準備を進めていただきたいと思います。

私の地元ですが、下町台東区、上野、浅草、谷中といった、日本屈指の観光地であり、これまで国内外から毎年年間5000万人以上のお客様が訪れ、大変ポテンシャルのあるエリアです。し

かし、コロナによるダメージは、今なお続いており、中小零細企業の皆さんも、今懸命に歯を食いしばって踏ん張っておりますが、上野動物園で双子のパンダが生まれるなど、少しずつ光が見え始めてはおるものの、なかなか先の見通しが立たない状況でもあります。

そんな中で、今回の東京都のこの観光産業振興プラン策定には関係者一同大きな期待を寄せております。持続可能な観光の推進として、地元自治体や観光協会などこれまで以上にしっかりと連携して、地域が主体となり観光を盛り上げていけるような仕組みづくりも必要です。

さらに、東京 2020 大会のレガシーの一つでもありましたバリアフリー対策、これは当然ですが、また、煙のない東京を目指す、東京都受動喫煙防止条例、これを一層推進していただき、国際観光都市として、特に屋外での喫煙環境、このさらなる整備に向けて、都による区市町村、自治体、民間への一層の支援を要望するところでもあります。

最後に、政策目標であります、2019 年のまさに 2 倍以上となる訪都外国人旅行者数、旅行者消費額 2.7 兆円、訪都外国人旅行者数 3000 万人の達成に向けて、大変高いハードルであります。皆様に今評価いただいている、このプランの毎年の PDCA サイクル、PDCA もしっかりと行っていただきますよう強く要望して、私の意見表明を終わります。ありがとうございました。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

まだ御発言いただいている渡辺委員、お願いします。

#### 【渡辺委員】

JR 東日本の渡辺でございます。

多くの委員の皆さんからの示唆に富んだ発言を受け、本当に共感をさせていただいております。

重なるところはあまりないようにしたいと思っておりますが、私からは端的に 2 点お話をさせていただきます。

1 つはインバウンドプロモーションです。フェーズ 3 というところで、インバウンド回復に合わせて海外プロモーションをとという記述がありますが、これは当然国が開いてからインバウンドプロモーションしても遅いわけでありまして、オリンピック・パラリンピックを行って、東京オリパラのレガシーとして多くの世界の方に東京の印象がある今から、日々進化している東京の魅力というものをしっかりと発信していくべきだと思っております。

特に、今世界に発信していくべき情報は、やはり世界一衛生的で安心安全な大都市「東京」ということだと思いますので、そういった地域の皆様あるいは事業者の皆様の安全・衛生対策の努力をしっかりと可視化して世界に発信をしていくということは今からお願いしたいと思います。

それから、東京の島嶼部や多摩地域、当然都心部の魅力を例えば在留外国人の方の SNS 等を使いながら発信をし、リアル感のある情報として日々上書きしていくということが有効だろうと思っております。

日本政策投資銀行と日本交通公社の調べでも、コロナ後に最も訪れたい国は日本であると、欧米の方も、アジアの方も思っております。またその上で目的地を選ぶ際に最も重視するポイントとしては衛生的な取組みをしている点である、ということですので、そういった意味からも今から発信をしていただきたいと思います。

もう一点は、これも各委員の皆さんから出てまいりましたが、地域の方、住民の方と観光業界の意識をすり合わせるということを是非お願いしたいと思います。コロナの時代というのは、本当に国民の意識を分断したというのですか、我々観光に身を寄せる人間は、少しでもお客さまに動いていただきたいという思いがある一方で、医療的観点からは人が動くことによるこれ以上の感染拡大は防ぐべきという意見もございました。

これからの新しい生活スタイルにおいては、感染防止と観光との両立を実践していかなければならないと思っています。そうでないと、ここに記載された新たな観光スタイル、ニューツーリズムということが実現できないだろうと思います。そのためには、観光業界と医療業界との連携が必要です。さらに、地域における観光の貢献度を、観光業界以外の商店街や地域の皆さんにもしっかりと訴求しながら、いわゆる観光の応援団を、この2年間の中で増やしていくということが必要なだろうと思っています。観光の重要性を浸透させていくためには、観光教育ということも必要だと思っています。

私どもは鉄道業界ですけれども、最近、観光業界や鉄道業界を就職先として選ぶ学生が減っているのが現状です。若い方に観光、移動する、旅行するということのすばらしさを体験価値として感じてもらうこと、そして「我が町に旅行者が訪れることでこの町が潤う」という地域における観光の重要性を今から意識醸成していくことを通して、数年後に多くの外国人の方が東京を訪れるそのときには、地域のみなさんがウエルカムマインドを持って受け入れられる環境整備をすることが必要だと思っています。ぜひ、これからの2年間においてこの地域、住民に寄り添った観光地経営、そして住民の理解促進を重点的に取り組んでいただければと思います。

以上です。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

まだ御発言いただいていない原田委員、お願いします。

#### 【原田委員】

私からは、まずコロナ対策と観光振興について、以前から観光とコロナ対策の関係で重視されているのが、検査体制の強化。現在、都は小笠原海運においては、乗船者全員のPCR検査を行っています。これを私はまずは伊豆諸島全体に拡大すべきではないかなと。世界規模で見れば、感染拡大は半年や1年で収まりそうにないわけで、だとすれば、国内・国外の観光においては、出発前にPCR検査が気軽に受けられる体制が取られれば、これは出足も受入れ体制も違ってくるでしょうし、何よりも国内での感染拡大、再拡大を防げます。小笠原海運での取組を、東京の観光産業振興のためにもっと広げられることを求めたいと思います。

もう一つは、環境問題と観光がバッティングすることをなるべく防ぐ努力です。

インバウンドを当て込んで、大事なことですけれども、ただし、一方で巨大な箱だけ先につくような方向性は取るべきではありません。昨年開業した新客船ふ頭の国際客船ターミナルは、コロナ禍とはいえあまりにも少ない寄港しかなかったと、これはコロナがなくてもそうなるのではないかとされていました。

巨額の税金をかける大型開発がインバウンドにつながると考えるのは、安易かつ危険ですし、

気候変動対策と重大に矛盾するので、やめるべきということを指摘したいと思います。

そうした巨大開発よりも、今、東京にある資源を生かすことがすごく重要ではないかと訴えたいと思います。

注目したいのは、例えば築地まちづくり。そもそも日本イコモスから、築地市場が世界遺産の候補地として名を上げられる寸前だったときに壊されまして、観光資源の発掘も何もあったものではないわけですが、築地の奥はまだ深いものでして、そもそも築地は松平定信公がつくった幻の庭園、浴恩園の上にできています。この歴史的遺産の発掘に、観光審議会としても後押しが必要なのではないかと考えています。

芝離宮、そして、格上となる浜離宮、それに匹敵すると言われた浴恩園、これが並べば、これはそれこそ国際レベルのインパクトを持った、日本を代表するベイエリアの観光資源創出となるんじゃないかと提案したいと考えています。

もう一つ、現在、品川駅北周辺地区高輪ゲートウェイの開発が進んでいますが、工事中に驚くべき史跡が発見されました。

日本最初の鉄道である新橋～横浜間 29 キロのうち、約 2.7 キロ、世界でも珍しい海上鉄道、高輪築堤が建設をされたのが 150 年前です。既に国指定史跡旧新橋停車場跡に一連となる優れた遺構です。

西洋の鉄道技術と江戸時代の土木技術が一つになったこの海上築堤は、その美しさが当時の錦絵にも描かれまして、高輪築堤調査・保存等検討委員会から、鉄道史上、近代史上、土木史上、産業史上重要な位置を占めると指摘をされています。そして、何と日本イコモス委員会から世界的な意義と価値があるとして、今、全面保存の要望書が出されています。つまり、これまた世界遺産級の発見というわけなのです。しかも、来年鉄道が 150 年です。

終わりにしますが、ただ、JR 東日本さんが、これを一部保存にとどめて、ほかは記録保存、つまり壊してしまうのです。これは、日本が、遺跡発掘、保存は全部土地所有者に責任を負わせるもので、そこに問題があるので、JR さんだけに責任を問うことはできません。私は、この観光審議会を持つ東京都や都知事が、本当に日本や東京の歴史や文化、観光に対する深い思想を持っているのかと問いたいと思いますし、東京都、率先して、この錦絵に描かれた 800 メートルに連なる壮大な高輪築堤、保存したら、高輪ゲートウェイの価値というより東京の価値が上がったのではないかなと思って。今からでも遅くないのではないかなということを意見して、それにこの PRIME はすごく通じるものをたくさん持っているのではないかなと思って発言を終わりたいと思います。

#### 【大下会長】

ありがとうございました。

私も鉄道ファンだからお気持ちは非常によく分かるのですが、今のこの状況でございませぬ。

時間が参りまして、あと 2 人、御意見を聞いていないので、ぜひお伺いしたいと思います。

それと、少し時間がオーバーしてしまいますことをお許しいただければと思います。

まず、オンラインのほうで師岡委員様、最後になりましたがよろしくお願ひいたします。

### 【師岡委員】

西の端、奥多摩町の師岡でございます。よろしくお願いたします。

第2章の政策目標の中に、資料のページでは14ページなのですが、東京の伝統芸能や食など、東京の持つ芸術文化の魅力が最大限生かされ、旅行者と都民がという、そういう町を目指すというのがありますが、先ほど三鷹の河村市長さんもおっしゃったように、やはり地域地域で特徴を持った観光事業をこれから展開すべきだと思っているのですが、私ども目指すべき将来像というより、今、既にこれを実践しなければいけない、実践していくという状況でございます。

ただ1つ、この夏、秋のオーバーツーリズムの中で、苦労もしましたけれども、また若干課題も出てまいりました。ここの中にある、量より質をどこまで我々が具現化できるかは、今これからの課題ではありますけれども、一生懸命向き合ったいと思っています。

それから、先ほど、高井委員さんでしょうか、ギャップを埋めるというお話ありましたけれども、まさしく、今、この仕事は結構量が多くて、この辺りをどのように調整していくかというのが、私ども奥多摩町の大きな課題であります。

それから、先ほど来多摩・島嶼の施策で、いろいろな形で御尽力いただいていることは皆様のお話から出てまいりました。私、JR 青梅線を使って通勤をしております。社内のPRビデオの中で、多摩・島嶼地域の魅力を発信するという事で画像を流していただいています。そんなことも、観光客、それから、我々通勤している人間がしっかりと我々は意識し、観光客の皆さんはそれを見て興味を抱いていただける、そんな形があればいいかなと思って、こういう施策に対して非常に感謝をしておりますので、私ども受入れ側としては、こういうことをしっかりと受け止めて、これからやってまいりたいと思っております。

基本的にはこの案で賛成でございますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

### 【大下会長】

簡潔に御意見をいただきましてありがとうございます。

最後になりましたが、西崎委員、よろしくお願いたします。

### 【西崎委員】

都議会立憲民主党の西崎でございます。

全体的には非常にきれいに組み立てをいただいていると思っておりますけれども、1点だけ、いわゆる住宅宿泊事業、民泊について、都がどう向き合っているのかというのがちょっと分からないという印象でございます。

御案内のように、法が施行され、特区民泊は別でありましたけれども、その後、これに合わせて都内の多くの自治体で、これをさらに制限する条例というものをかけて、かなり厳しい状況になっていると。私、地元は目黒ですけども、これはかなり地域トラブルが以前から起こっておりますので、特に、いわゆる家主不在型の民泊を制限する、これについては非常に意義があったと思いますし、私もそれはやるべきだったと思っています。

一方で、家主居住型で、国内外からのお客様を迎え入れるというのは、まさにおもてなしそのものだと思います。これを一緒にたに制限をしてしまうということはどうなのかと思っております。民泊というと、この負のイメージがつきまとうというのは、まさに各地域に、観光客は少

し迷惑だという、先ほど来御指摘をされておりますけれども、そうした感覚が実際にまだ存在するということです。

そのことから、この施策6のところでは、シビックプライドということも挙げていただいておりますけれども、この民泊を、これは既存の、今日、事業者の皆様もいらっしゃっておりますけれども、これは別に衝突するものではなく、お互いに高め合うものだと思います。

その意味からも、観光産業の振興をこれから語るときに、この民泊を外して進めていくというのは、少し違和感があるなという認識を持っておりますので、また御検討いただければと思います。

以上でございます。

### 【大下会長】

どうもありがとうございました。

皆様より御意見は一通りいただけたと思っております。

お時間も参りましたので、この辺りで皆様からの御意見は終わりにして、最後に私のほうからまとめさせていただければと思います。

3点ほどございますが、まず1番目でございます。

本日、案が出されたわけでございますが、コロナ禍において、直接的な影響を受けられた観光産業の復活というものと、サステナブル・リカバリーを基本理念とする2か年の実行プランとして、基本理念をはじめ3つのステップアップ、あるいは段階を踏んだ復活を目指そうということ。そして、全体の構成、さらには MICE を横串で取り上げているということなどについて、各委員様から特にこれを直すべきだという御意見はなく、御了解をいただいたと、全体的な印象としては御理解をいただいて、御支援をいただいていると思っております。

ただ、一言一言の中に、かなり部分的な修正、追記等が求められる文言もあろうかと思っておりますので、その辺りについては御意見をお聞きして、反映できるものについては反映していただければと思っております。

また、特に3つのステップアップというものについて、皆さんからの御意見として、情報発信等については、3番目のステップで外国人が来られるようになってからやっていたのでは遅いんだよと。同時並行的に進んでいくということも大事だという反面、地域の方々と観光とは直接関わりのないような人たちの理解も得られるようなことも当然ながら含めていかないといけないということを考えていきますと、この3つのステップというものを出しながら、これは2か年でございまして、いつからいつまでが第1ステップで、いつからいつまでが第3ステップだという区切りは多分できない。

できるところから着実にステップアップを図っていくというように御理解をいただき、最初から外国人観光客をとというステップ3を出すと、アレルギーを出される方々も少なくないかも分からないので、理解が得られるように、ステップ1、2、3という段階を踏むと。でも、やるべきことはきちんとやっていきますよという姿勢ではないかという御理解を賜ればと思っております。

それがまず1点目で、全体的には皆さんから評価をいただいたということで、事務局のほうに、取りまとめ、大変だったと思っておりますが、まず感謝を申し上げたいと思っております。

2 つ目のテーマとしては、サステナブル、持続可能性ということをお今回は一つ大きく取り上げられたということが評価されるのではないかと御意見であったと思います。

サステナブルあるいは持続可能性というものは、これから日本全体の大きなテーマの一つでもあると思います。先ほどお話が出ておりましたが、観光分野では、地域によって言い方は様々異なりますが、公民連携であったり産官学連携であったり市民協働という言葉で様々な表現で先行して取り組まれているところも少なくありません。私に関わりを持たせていただいている北区においては、今年、渋沢栄一翁が大河ドラマのテーマとして取り上げられたことによって、公民連携で関連する事業が総合的に展開されてきました。特に民間パワーが水平的に展開されたことは特徴でした。

本日の内容でも、理念だけ、あるいは言葉だけが独り歩きするのではなく、実践につながるよう、関心が寄せられるテーマ、取組といったようなものを、この取組事業の中で積極的に展開していただくことが、皆さんの多分御要望でもあらうと思いますので、ぜひお願いをしたいと思っています。それが2点目でございます。

3点目でございますが、どう展開、実施するかということは非常に大きなテーマとなっております。

そのときに、ぜひ、今日の議論の中で出てきましたのは、応援団というキーワードであったりファンという言葉であったり、地域住民の方々と乖離しないような観光事業をと。これが今回の中では、多様な主体による、住民に寄り添ったような観光地域経営という言葉で表現をいただいております。

これまでの中に観光地域経営という言葉が出てきたことはなかったと記憶しておりますので、極めて新しい取組を今回の中で展開していただいているのだと思っております。

その中で、平澤委員だったと思うのですが、意見をいただいた意見の中に、高校生のシビックプライドという話もございました。「東京ならではの」というキーワードがタイトルにあります。私は「東京ならではの」という中の一番大きなところは、働く人、少なくとも、今までの状況からいうと働いている人はたくさんいたと。これからリモートになっていったときに少し減るかも分かりませんが、それでもまだ東京は働いている場が多い。さらに多いのが、学ぶ場であって、大学生がかなり多い。しかも留学生もかなり多い。そういったような多様な主体の中に大学生が全国から集まってきたり、あるいは働く人が近県から集まってきたりというような状況でございます。

特にその中でも、子供たちということも含めて、人材確保、人材育成という観点は必ずしも現代の働き手ばかりではなく、将来に対する長い時間を持つての取組が必要だろうという御意見をいただいたと思っております。

できれば、高校生ばかりではなく、中学生あるいは小学生にも対象としたもので、東京の観光というものを広げていただくようなことも含めて御検討いただければなと思うところがあります。

昨今、私は、先ほど三辻委員から御意見をいただいておりますが、大島の隣の三宅島で、子供たちを対象にしたような観光副読本というのを執筆して、教育委員会のほうに提出したこともございました。できれば、そういったようなものが都内の各地で展開されることをも願っております。

ます。

最後になりましたが、この計画というものがつくられ、それをどう進めていくかということで、最も大事なことは、共感が得られるかどうかという一言に尽きると思うのです。

なるべく多くの人たちの共感が得られるように、ここに御多忙の中御参集いただきました各委員様におかれましては、各業界団体あるいは地域とか、様々な場面において、こういったようなプランで、現在、前向きに観光というものを進めようとしている、東京だけではなく、東京の玄関口として全国との展開も含めて東京はやろうとしているんだというような内容を、ぜひ関係者の方々にお伝えいただき、共感を得て、一人でも多くの応援団あるいはファンという形につながっていくような取組を御一緒につくっていただければと思います。

計画をつくるのは、観光部がつくるだけではございませんで、私ども意見として具申するのは当然なのですが、新プランのファンの一人として、できましたら応援をしていただければとお願いを申し上げて、意見のまとめとさせていただきます。

今日は限られた時間の中、また、10分ぐらいオーバーしてしまいましたことに深くおわび申し上げます。

本日は皆様から様々な御意見をいただきました。先ほどもお話をいたしました、既にプランの中に入っているもの、あるいは入っていないものについては、追記ができるものであれば追記をいただければと思うところがございます。

また、最終版に反映するということになりますが、本審議会としての意見の集約につきまして、時間の関係もでございますので、できればまた集まってということではなく、会長である私に御一任いただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

#### 【大下会長】

ありがとうございます。

「異議なし」との声がございましたので、私のほうで責任を持って確認をして、発行につなげていきたいと思っております。

それでは、以上をもちまして、私のほうから事務局のほうにお返ししますので、連絡事項がありましたらお願いしたいと思います。

#### 【築田観光部長】

委員の皆様、どうもありがとうございました。

本日いただきました御意見を踏まえまして、最終版の策定に取り組んでまいりたいと思っております。事務局からは以上でございます。

#### 【大下会長】

それでは、最後に坂本局長から一言お願いを申し上げたいと思っております。

#### 【坂本産業労働局長】

産業労働局長の坂本でございます。

各委員の皆様には、本当に年末の慌ただしい、お忙しい中で御出席を賜りまして、誠にありがとうございました。

本日、委員の皆様がそれぞれ日頃から取り組まれているお仕事、さらにはお立場、そして、そうした部門を超えての非常に広い視点からの貴重な御意見を承ることができたこと、改めて感謝申し上げたいと思います。

今後なのですが、頂戴いたしました意見を踏まえまして、来年の2月、年明けの2月になりますが、その時期を目途としてプランを取りまとめていきたいと考えてございます。

今後とも、都の観光行政に御指導と御鞭撻をお願い申し上げまして、御礼の挨拶に代えさせていただきますたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

**【大下会長】**

以上をもちまして、本日の「東京都観光事業審議会」を終了させていただきます。御議論、ありがとうございました。

午後3時13分閉会